

農芸化学会道支部、土壤肥料学会道支部など **合同学術講演会**

産学官連携 大きな成果生む

各分野の最新の研究報告

日本農芸化学会北海道支部、日本土壤肥料学会北海道支部など5団体の2005年度第2回合同学術講演会が4、5の両日、帯広経済センタービル6階大会議室などで開かれた。研究者と学生ら約80人が参加し、各分野の最新の研究を報告した。年2回、道内各地で持ち回り開催しており、帯広は02年以来の開催。

(広田実)



連携事業について
説明する佐山氏

4日午後2時からのシンポジウム「産学官連携による地域新産業創出への挑戦」では、小田有二・北農研センター(芽室)流通システム研究チーム長の司会で、5人の

担当者が道産小麦やビート糖などの素材を生かす、十勝で推進中の研究テーマ概要を報告した。このうち、十勝圏振興機構の佐山寛司コーディネーターは文科省の都市エリア産学官連携促進事業(05-07年度)について説明。ナガイモを利用した機能性食品開発の狙い、DNAマイクロアレイ法の可能性などを示し、「大学の有する研究

シーズと地域社会のニーズを融合させて新規事業を創出する。60人を超える研究・技術者が集まっており、必ず大きな成果を生む」と強調した。

5日午前には会場に於かれ、帯畜大関係者らが20テーマについて一般講演。午後は特別講演が行われた。